

医薬協ニュース

368号

2002年(平成14年)3月

●目次●

- ・トピックス 社会保険診療報酬等の改定について 1
- ・中医協における卸連代表の発言に対する
抗議申し入れについて 2
- ・委員会活動 教育研修委員会 4
- ・リレー随想 (山本 典男)
石川英輔著「大江戸神仙伝」 5
- ・活動案内 7

■編集

医薬工業協議会
総務委員会広報部会

■発行

医薬工業協議会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-3-10
日本橋銀三ビル

TEL03-3279-1890 FAX03-3241-2978



社会保険診療報酬等の改定について

中央社会保険医療協議会は、2月20日の総会で14年度社会保険診療報酬等の改定について諮問・答申した。

その中で、後発医薬品の使用環境整備の観点から見直しを行うとしていた処方せん料は、①処方料 ①53点は→43点(後発品を含む処方)、41点(その他) ②処方せん料 ②81点は→71点(後発品を含む処方)、69点(その他)に改定、後発品を含む処方と、その他に格差を設けた。また、後発医薬品の使用環境の整備では、調剤の項目の中で、品質情報の患者への説明、後発医薬品の調剤評価として「医薬品品質情報提供料」10点を新設。『後発医薬品に関する主たる情報を文書等で提供し、患者の同意を得て後発医薬品を調剤した場合に算定』するとし、後発医薬品の調剤にかかる加算2点(一調剤につき)も新設された。

中央社会保険医療協議会は、2月13日の総会で14年度の薬価制度の見直し案を了承、決定した。

昨年12月の総会で薬価専門部会から報告のあった「14年度薬価制度改革の基本方針」を受けて、見直しルールの詳細を検討してきたもの。見直しは、新規収載品の算定ルールと既収載品の薬価改定について記載。このうち、既収載品の薬価改定では基本方針や、1月18日の総会で示された診療報酬改定等での「先発品の薬価改定」に加え、「低薬価後発品の算定方法の特例」として現行の①特例の対象＝市場実勢価格加重平均値調整幅方式又は再算定により算定される額が、組成、剤形区分及び規格が当該既収載と同一である類似薬の改定後薬価のうち最も高い額の40%を下回るもの ②改定後の薬価＝上記最高額の40%としていたものを、改正では ①既収載品の市場実勢価格加重平均値調整幅方式又は再算定により算定される額が、組成、剤形区分及び規格が当該既収載品と同一である類似薬のうち最も高い額の20%を下回るもの ②組成、剤形区分及び規格が同一であって、特例の対象に該当する低薬価品の一群の市場実勢価格加重平均値に、薬価改定前の当該低薬価品群の薬価の加重平均値の2%に相当する額を加えた額。(注)14年度薬価改定においては、従前GERルールが適用されていた医薬品について、組成、剤形区分及び規格が同一の一群の市場実勢価格加重平均値に、薬価改定前の当該一群の薬価の加重平均値の2%に相当する額を加えた額を薬価とするとした。

中医協における卸連代表の発言に対する 抗議申し入れについて

去る2月13日開催の中医協薬価専門部会において、日本医薬品卸業連合会の代表委員より「G E ルールの廃止に伴い、後発品企業が投げ売りを行い、安定供給に支障が出る」との発言がありました。

このことは全く事実に基づかない不公正な発言であり、決して容認できるものではありません。

従いまして、当協議会としては、この度の当該薬価専門委員の発言を重大に受け止め、後発医薬品に対し誤解を与え、悪影響を及ぼすことを目的とした恣意的発言は、今後二度とあってはならないことであり、中医協等の場において厳に慎んで戴きたい旨、2月18日に日本医薬品卸業連合会に対し書面をもって抗議を申し入れました。(3頁参照)

また、同時に抗議書の趣旨等について本町記者会そして厚生労働省医政局経済課原課長に対し詳細に説明を行いましたことを申し添えます。

以上

平成14年2月18日

(社) 日本医薬品卸業連合会
会 長 松 谷 高 顕 殿

医 薬 工 業 協 議 会
会 長 杉 浦 好 昭

中医協薬価専門部会における内匠屋専門委員の発言に対する抗議

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当協議会の運営に
対しご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2月13日開催されました中医協薬価専門部会において、貴会代表、内
匠屋専門委員の発言の中に「GEルール廃止に伴い後発品企業が投げ売りを行い、
安定供給に支障が出る」との発言をされたことにつきまして、当協議会事務局に
対し、多数の会員企業より異議申し入れが殺到しております。

当協議会は、平成5年「21世紀の医薬品のあり方に関する懇談会」の提言で
示された「後発医薬品を有効活用するための条件整備3原則」、即ち、①安定供
給の確保、②情報収集・提供体制、③品質・製造管理の徹底に関し、鋭意自助努
力をした結果、これらの条件整備が全て終了し、現在、万全の体制を取っている
ところであります。

この度の内匠屋専門委員の発言内容は、何の根拠にも基づかない後発医薬品企
業に対する中傷・誹謗であり、又、恣意的に後発医薬品市場を混乱させることを
目的とした発言としか言わざるを得なく、当協議会として決して容認出来るもの
ではございません。

つきましては、今後、中医協薬価専門部会等における発言には、他の委員に誤
解を与えることのないよう、エビデンスに基づいた発言に留意下さいますようお願い
申し上げます。

また、国民に良質・安価な後発医薬品を安定供給していく観点から、現在、国
が進めている後発医薬品の使用促進に対し、今後とも格別のご協力、ご配慮を賜
りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

委員会だより

教育研修委員会

第8回MR認定試験 結果発表報告

2001年12月9日(日)に実施された第8回MR認定試験の試験結果が、2002年1月25日(金)に(財)医薬情報担当者教育センター(以下、MR教育センターと略称)より各製薬企業に郵送にて通知された。

今回は東京、大阪の2地区5会場(願書提出者数は、5,642名)で実施された。MR教育センターの発表では当日欠席者もあり、総受験者数は5,499名であった。総合格者は3,951名、合格率は71.8%(前回合格率:70.9%)と、過去最低の合格率(前回)を若干ではあるが上回る結果であった。

また、今回よりMR研修新テキスト改訂版からの出題になり、試験科目の名称と試験科目の順番が変更されたほか、かねてより希望の多かった受験者が試験問題を持ち帰ることが可能となったため、受験者は自身での答え合わせや合否がある程度予測できるようになった。

第9回MR認定試験は2002年12月8日(日)に第8回同様、東京と大阪の2地区で実施される予定で、各社教育研修責任者は当該年度の導入教育研修修了者を中心に教育研修のレベル向上を計り、受験者の更なる合格率アップを期待したい。



石川英輔著「大江戸神仙伝」

太田製薬株式会社

山本典男

テレビでは「コメディお江戸でござる」、呼び名でもめた都営地下鉄「大江戸線」、第126回直木賞受賞山本一力著「あかね空」は江戸深川の家族愛物語と最近江戸という二文字が目立っている。

そんなわけで、石川英輔著「大江戸神仙伝」(1979年)をご紹介します。二十年も前の本なので、ご存知の方にはお許し願おう。実はこの大江戸シリーズは第1作の「大江戸神仙伝」から「大江戸仙境録」(1986年)、「大江戸遊仙記」(1990年)、「大江戸仙界紀」(1993年)と続き、1999年の「大江戸仙女暦」の計五作にまで及ぶ。著者の石川氏は国際基督教大学、都立大学理学部を中退、製版会社役員、大学講師を経て、NHK教育テレビ「やってみよう 何でも実験」の理科実験番組にもレギュラー出演した特異な経験をもつ。

そのあらすじは、主人公が現代の東京から160年前の花のお江戸にタイムスリップし、文明の利器や医学の知識を駆使して活躍する。綿密な時代考証により江戸市民生活を鮮やかにしかも克明に描いている。

現代では、主人公の速見洋介は、製薬会社の渉外開発課長から妻の急逝を契機に科学評論として著述業に転進、編集者であった上品で穏やかな人柄、キャリアウーマンの尾形流子(30歳代)と再婚する。一方で速見は、江戸文化の爛熟期1820年代文化文政期という過去の時代に転がり込むことができる転時という能力をもつ。

その江戸では町医者北山涼哲の保護を受ける。涼哲は、洋介が仙境(仙人の国)からきたと思い込む。当時脚気は重症になると死に至る不治の病としておそれられていたが、洋介が米糠から抽出したビタミン B₁で涼哲の患者が劇的に完治する。又、現代の時計を江戸時代に持ち込みこれが千両(一人前の大工の生涯所得)で売れ名誉と富を得て、芸も器量も抜群の辰巳芸者いな吉(19歳)

を囲い江戸でも新居を持つ。即ち主人公は現代と過去の両方に、新しさと古さの良さをそれぞれ兼ね備えた女性をもち、ハラハラドキドキしながらも何もかもがうまくいく。これが全編に流れるストーリーである。

もう一方、作者は、「文政五年の隅田川は清らかに流れている。ごみ一つ浮かんでいない水面を見ながら、私の心の中に江戸に対する深い愛惜の情が湧いて来た」と語り、「東京は、新興都市に違いないが、江戸時代から通算すれば、四百年の歴史と、それなりの伝統ある土地柄なのだ。ところが、歴史とか伝統などというものは、効率という点から考えれば、邪魔なだけの代物に過ぎない金儲け第一主義なら、さっさと叩き壊すに限るのだ」と現代の金儲け至上主義を嘆いている。「後世の歴史家が封建時代の日本人に同情するのは、当の江戸人にとっては、むしろ余計なお世話かもしれない」とまで言い切っている。実に鋭い洞察力である。話は、寺子屋の読み書きそろばん、治安をつかさどる町奉行、自然循環が完結するミクロコスモスまで発展する。作者は、科学的根拠を挙げながら、江戸時代の制度、文化、市民生活、娯楽、環境に至るまで客観的で説得力のある筆力も鮮やかに、丁寧に記述している。ここが本書のもう一つの読みどころである。

三つ目の読みどころは、この物語の舞台が当社の周辺に設定されていることである。当社の所在地は、地下鉄人形町から五分のところであり、医薬協のある本町からは昭和通りを渡り東へ徒歩で十分ぐらいのところの位置する。この界限は、独特の華やかさのある典型的な下町の繁華街である。水天宮、明治座、与三郎で有名な玄治店、人形町から堀留寄りには、江戸歌舞伎の中村座、市村座もあった。江戸開府後間もない頃の吉原遊郭は、人形町と明治座の間で、一面の葎原であつたらしく、吉原の起源は植物名の葎原であつて縁起のいい吉原としていたとのことである。当社の脇道には、いまだに吉原の大門通りの名称が残っている。明暦の大火(1657年)後に台東区千束に吉原は移転したため、その後は旧吉原といわれた。洋介の転時の場所は日本橋北詰(三越側)、いな吉は門前仲町(江戸深川)の辰巳芸者、実家は日本橋小網町(下駄屋)、洋介との新居は芳町(現人形町)、現代の洋介の生家は蛸殻町とまさしく当社隣組の親しみのある地名が随所に出てくる。洋介がいな吉を伴って散策する様が彷彿としてきて興味深い。

是非日本橋にお越しの際は、お立ち寄りください。ご案内いたします。

次号は、壽製薬(株)富山社長にお願いします。

活	動	案	内
---	---	---	---

<日誌>

2月5日	薬価委員会第四分科会	医薬協会議室
2月6日	総務委員会総務部会	〃
2月14日	関東ブロック会	薬事協会会議室
〃	常任理事会	新大阪フシントンホテルプラザ会議室
〃	教育研修常任委員会	医薬協会議室
2月15日	オレンジブック総合版推進委員会	〃
〃	オレンジブック総合版推進委員会全体会議	薬事協会会議室
2月19日	流通適正化委員会	医薬協会議室
〃	ジェネリック研究委員会	薬事協会会議室
2月21日	薬価委員会	千疋屋会議室
2月22日	教育研修連絡会	薬事協会会議室
2月27日	総務委員会広報部会	医薬協会議室
〃	薬事・安全委員会正副部会長会議	〃

<今月の予定>

3月5日	教育研修常任委員会	医薬協会議室
3月6日	総務委員会総務部会	〃
〃	総務委員会広報部会	〃
3月7日	関東ブロック会	薬事協会会議室
3月13日	委員長会議	医薬協会議室
3月14日	常任理事会	〃
〃	理事会	薬事協会会議室
3月15日	教育研修委員会総会	〃
3月19日	流通適正化委員会	医薬協会議室
3月26日	総務委員会広報部会	〃
3月27日	海外情報委員会講演会	薬事協会会議室

| 編 | 集 | 後 | 記 |

2月初旬に薬価改定の内示もあり、薬価告示まで、各社騒がしい時期を迎えているのではと推察しております。殆どの製品が引き下げの対象になっているようで、薬業界に働く者にとっては迷惑極まりない出来事です。さらに会員各社においても毎年恒例の全社並びに各セクション毎の新年度に向けたスケジュール・年間目標等の打ち合せが待ちうけていると思います。

ストレスが溜まります。

あの雪印が崩壊しそうです。昨年の食中毒事件から今回の偽装食肉事件で、再生を図るとは言いながら弱い労働層ばかりが割を食う時代です。TVなどで削減された雇用者の人達が悲しげな表情をして話をしていました。明日の事がわからないような現代では、まるで他人事とは思えません。

またストレスが溜まります。

毎日々々、寒い日が続いています。(記事を書いていた時期が、2月の2週目一番寒い時でした)年度末をひかえ、風邪などひかないように心がけてはいたのですが、ついに風邪をひいてしまいました。ピリン系の風邪薬が身体に合わない(アレルギー)ため、非ピリン系の薬を常備しており頭痛、くしゃみ、喉の痛みなど風邪の諸症状の際には即座に服用するよう心がけています。

ストレスから来る疲れのせいでしょうか。

いろいろとストレスが溜まる時期です。良い解消法があればと、あれこれ探してはみるのですが、温泉にでも行こうと思っても、そこに行くまでの時間がわずらわしく、ついつい入浴剤を入れた自宅温泉で我慢してしまうこのごろです。結局、解消法が見つからないまま、さらにストレスが溜まります。

皆さんも、今という時代を静観しながら、平成15年度より施行される医療費3割負担などストレス起爆剤は山積みですが、どのような形にしるストレスを溜めないよう、常にリラックスしてコーヒー(お茶)の一杯でも飲みながら自分の仕事を楽しくこなし頑張ろうではありませんか。

(S.K)